

令和3年度8月臨時教育委員会議事録

【日時】

令和3年8月4日（水）

開会 午前11時00分

閉会 午前11時50分

【会場】

辰野町民会館ホワイエ

【出席者】

12名

(辰野町関係者)

辰野町長 武居 保男

辰野町副町長 山田 勝己

(辰野町教育委員会)

教育長 宮澤 和徳

教育長代理 根橋 久人

教育委員 垣内 由佳

教育委員 関 政彦

教育委員 萩原 多恵子

(事務局関係)

総務課長 加藤 恒男

生涯学習課長 西原 功

こども課長 小澤 靖一

総務課課長補佐

兼秘書室長 高倉 健一郎

こども課課長補佐

兼学校教育係長 桑原 さゆり

【傍聴者】

5名

【次第】

- 1 宮澤教育長挨拶
- 2 武居町長挨拶
- 3 協議
 - (1) 川島小学校の今後の議論についての町長見解
 - (2) 町長見解を受けての意見交換

○開会

1 開会の言葉

<宮澤教育長>

ただいまから8月の臨時教育委員会を開催させていただきます。

2 会期の決定

<宮澤教育長>

本日1日限りとしたいがよろしいでしょうか。

・異議なし

3 宮澤教育長挨拶

8月に入りました。猛暑とコロナ禍という2つの災害が同時に日本を襲っている中でございます。お互い、熱中症にもコロナにも気を付けていきたいと思えます。

そのような中、本日臨時の教育委員会を開催させていただきました。大変お忙しい中、教育委員の皆さん、武居町長、山田副町長、さらには加藤総務課長にはご出席いただきありがとうございます。

本日の臨時の教育委員会でございますけれど、先週の月曜日、7月26日にプレスさせていただきました。傍聴として、議員の皆様にもご出席いただきました。ありがとうございます。

7月に、川島小学校の今後につきまして、川島区、各耕地6会場において開催をし、多くの川島区民に対して町長の思いを説明いたしました。教育委員の皆さんもそれぞれ1回傍聴いただきましたので、様子をご理解いただくことができたのではないかと考えております。大変ありがとうございました。教育委員の皆さんも傍聴する中で、町長の思いについてはご理解いただくことができたと思っております。

今日は、この説明会において町長から、川島小学校の今後について、町長の見解、思いを正式に教育委員会に伝えると述べられましたので、その機会を本日取らせていただきました。教育委員会としましては、今日の町長の思いや意見を受け止め、あり方検討委員会の提言や3年前当時の教育委員会が出した見解を再確認し、今後は町長と共に協議していきたいと思えますので、よろしくお願い致します。

4 武居町長挨拶

改めまして、こんにちは。

ただいま、教育長の方からご挨拶がございましたが、先月は、川島小学校の今後についての地区説明会を6会場において実施いたしましたところ、多くの川島区民の皆様にご参加いただきました。

この問題への関心の高さを実感するとともに、お忙しい中、ご参加いただきました

皆様、事前のご準備ご手配をいただいた川島区長さんをはじめとする地元役員・関係者の皆様に、あらためて感謝を申し上げるとともに、当日傍聴にお越しいただいた教育委員の皆様にも厚く御礼申し上げます。

さて、説明会の折、お話ししたとおり、川島小学校の今後について私の見解を正式にお伝えし、今後の検討と一緒に参加させていただくため、本日ここに、臨時の教育委員会を開催していただきましたので、どうぞ宜しくお願いいたします。

5 協議

(1) 川島小学校の今後の議論についての町長見解

<武居町長>

まず、今回の検討にあたっての基本的な考え方からお話いたします。

川島小学校の今後については、地域の活性化や移住定住での視点は一旦外し、まずは、児童の学び・育ちにとってどうあるべきかについて議論を深め、方針を決定すべきだと考えています。

地区説明会においても、「学校のことは、子どもを中心に検討すべき」という意見が、統合に賛成・反対両方の立場の方から共通で出されておりました。

学校は、地域の皆さんに支えられ、地域にとっても、重要な文化施設であり、精神的な拠り所という側面を持つことは十分に認識しており、大切にしていきたいと考えておりますが、本来、公立の小学校は、義務教育のための施設ですから、子どもの学びと育ちの場としての機能を高めていくという教育目的を第一に考えることが必要です。

子どもたちを学校教育の中で、たくましく豊かに成長させていくことも町や地域が将来にわたり発展していくための大切な礎になると考えています。

以上の基本的な考え方の下で、あらためて考察した私の見解を申し上げます。

川島小学校については、現在の児童数が今後大幅に増加する見込みはなく、それにより、児童が学び、育つために必要な機会を十分に提供できない懸念があるため、あり方検討委員会の提言に沿って、隣接校への統合を検討すべきという見解をお伝えします。

川島小は、令和2年度、児童数12名4学級、令和3年度8月1日現在、児童数9名3学級で、下伊那郡阿南町和合小学校、令和2年度児童数7名に次いで、県下2番目に児童数が少ない学校となりました。

文科省の区分によると、学校全体で6学級に満たない、1学年1学級にならない、過小規模校に分類され、既に、一般に言われる小規模校ではないことをしっかり認識しておく必要があります。

上伊那では、児童数100名未満の小学校が伊那市に4校ありますが、令和2年度の時点で、長谷小は62名7学級、伊那西小と高遠北小はともに49名で8学級と7

学級です。

地元川島区でも視察された伊那市の新山小は児童数 46 名で 7 学級、小規模特認校として初めて 1 名の入学児童を迎えた平成 21 年度でも、全校 36 名の状況であったわけで、状況は全く異なります。

小規模校の利点として挙げられる、きめ細やかな個別対応では十分な効果が期待される一方、同様に利点とされる、行事や学習等における一人ひとりが活躍する場面については、どうでしょうか。

現在の児童数では、実施できる行事や内容等にも限りがあります。

同世代の複数の友だちと交わり、多様な見方や考えに触れる中で子ども自身も育っていくわけですが、このためには、日常的に同学年に複数の友達がいて、複数のグループができる状況が必要です。

あり方検討委員会の提言でもその点について触れていますが、実情は委員会で議論された想定より、はるかに少ない児童数にあり、提言で指摘された、主体的・対話的で深い学びや集団生活を学ぶための教育環境についての課題はより深刻な状態にあるものと言えます。

町立全ての小学校では、均等に義務教育として履修すべき学習と学校生活における育ちのための経験の機会を与えられなければなりません。

過小規模校となり、その役割を十分に果たせない以上は、統合を提案せざるを得ませんでした。

3 年間の取組で、川島区の子どもの数は確かに増えてはいますが、全国的な少子化傾向が、コロナ禍でさらに深刻となった状況をふまえると将来も継続的に子どもの数が増えていく見込みは、残念ながら立てることができませんでした。

川島小学校の魅力とされている自然環境の下での体験、世代を超えた地域住民との交流等は、他校においてもさまざまなやり方で取り組まれ、成果を挙げており、さらに、家庭や地域等においても、さらに充実した体験や交流の機会を設けることができますので、学校を存続させる積極的な理由にはできませんが、川島ならではの豊かな自然環境や風土などを生かして、地域住民をはじめ、町内外の幅広い人々が参加できる体験教室や生涯学習、交流等新たな学びの場を残せないか、考えていきたいと思えます。

まずは、教育委員会に、現在通学している児童の保護者との懇談の機会を設けていただき、そこに町も参加させていただきたいと考えています。

児童・保護者の思いや個々の状況をよく伺ったうえで、統合の時期とその後の通学先の選択その他経過措置、支援策についてあわせて検討し協議していくこととしたいと思います。

他の学校で集団生活等を経た後に、事情があって、転校してきた児童については、特に慎重な対応が求められるものと考えます。

さらに、この3年間に移住され、次年度以降児童の入学を希望している家庭に対しても、いずれ、懇談の機会を設け、必要に応じ、経過措置の適用も検討してまいりたいと思います。

統合の時期は、本日名言しませんが、来年度以降入学を検討しているご家庭にも考慮し、なるべく早い時期に結論を出す必要があります。

私も、町長として、率先して自分の考えを述べさせていただくつもりですので宜しくお願いいたします。

(2) 町長見解を受けての意見交換

<根橋教育委員>

お忙しい中、川島小学校の今後について、説明会を6会場で実施していただきまして、本当にありがとうございました。

多くの区民が参加できて良かったと思っております。

ただいま、正式に説明をお聞きしまして、今後町長さんの考えを進めていく過程において、様々な課題が出てくると思いますので、十分検討していただき対応していただきたいと思います。

<垣内教育委員>

6会場の説明会、お疲れ様でした。ありがとうございました。

今後の進め方において、保護者と現在通っている児童との懇談会の機会をもらって、町長さんも来ていただけるということなので、みんなでベストな答えが出るように一緒に考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

<関教育委員>

今、町長さんの見解をお聞きしまして、本当にこの見解はその通りだと感じております。実情を冷静に平等に公平に捉えるということが、今後話を進めていくときに大切なことかなというふうに感じました。しっかり捉えて、お互いに共有をして懇談を進めていくということが必要かと感じております。

3年前の町長さんのチャレンジ期間のご提案、またキャンパス化私案の提案という、こういったプロセスを経て、この今日の見解を出されているというところには、本当に重みや深みがあるというふうに感じております。町長が3年間かけて、どうにか川島小を残したいという思いがある中で、キャンパス化案が出たり、様々なことをご考慮された末の見解ですので、やはり非常に重みがあると感じております。あり方検討委員会の提言に対しての根拠、肯定感がより深まったのではないかと思います。

今の見解の中に出ている、統合の時期をここですぐ、いつということを言えないことは当然だと思いますけれど、なるべく早い時期に結論を出す必要があるとおっしゃ

られております。今後入学を検討している方や在籍しているご家庭などに対して、それならこのように考えるだとか、そういったことも話の中には出てくるはずですので、しっかり寄り添うという意味でも、統合時期をできるだけ早い時期に出すということは必要かと感じました。

<萩原教育委員>

ただいまお伺いした見解の中で、学校のことは子どもを中心に検討すべきという基本的なお考えの中での結論であるとお伺いして、子どもを持つ親としても、本当に子どもを中心に考えていただけることは嬉しいことだと思いました。

同世代の複数の友達と関わって、多様な見方や考えに触れる中で子どもたちが多くのことを学ぶという点について、町長さんがおっしゃられておりましたが、自分の子どもを見ていても、同じ世代の子どもたちの中で学んできているもの、その世代同士でないと問題として起きないこと、体の発達の部分、そういったところも同じ学年の子同士で解決しているなということを思います。子どもたちの成長にとってはとても大切なことであると感じております。同世代の子どもたちの関わりがある上で、異年齢同士の交流というものに生きてくるということがあり、自分の子どもたちを見て感じます。

今後の進め方のところで、懇談会を設定していただけるということで、私も小学校の子どもを育てる、今この時代に育てている親として、たくさんの方で共有できる部分があるのではないかと自分自身でも思いますので、しっかり皆さんのご意見をお伺いして、不安のところも含めてお伺いできればいいなと思っております。

最後に、時期についてはなるべく早い時期に結論をとということで、私も自分の子どもがこういう状況でということ考えた場合に、子どもたちの1年間と私のような大人になってからの1年間というものの違いはかなり大きいと思っています。1年間で子どもたちが学べる質や量はとても大きいのではないかと思いますので、私としてもなるべく早い時期に結論を出していただくことは、子どもたちにとって良いことではないかと感じました。

<山田副町長>

いろいろなご意見ありがとうございました。

話をお聞きしまして、これから保護者の皆様の意見を聞いて、対応策をしっかり探っていかなければならないわけであります。これから教育員会だけではなく、町も一緒になって考えていくという方向性が出ていますので、これからいろいろな支援策を考えたときに、教育委員会だけでは解決できない課題も出てくると思います。

町全体、役場全体の課題としまして、これから各課にもこの話をしっかりして、みんな考える形で進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

<武居町長>

教育委員の皆さん、ありがとうございました。

今、ご意見を頂戴して、自分自身が触れていないことも含めてお話をさせていただきたいと思います。

この3年間のチャレンジ期間、思い返せば込み上げてくるものもございます。ある方からは、所詮無理だろうとか、町長は何をやるんだとか、きつい言葉も浴びせられましたけれど、自分自身は強い決意でやり始めたつもりですし、地域の皆さんからも未来を信じてやっていきたいということで、冷静に川島の方々からのいろいろなご意見をお聞きする中で、ある程度、移住定住の考え方と教育の考え方とを分けなければならないことは、自分自身の反省にも反映されました。

決定的なことは、ここ1、2年は私の個人的な生活の中で出来ませんでしたけれど、毎年同窓会をやっています。当時は40名を超える学級でしたけれど、それでも10名近くは集まります。私が思ったことは、今の川島小学校の子どもたちは、こういう同級会、同窓会的なものを将来30年後、40年後開けるのだろうかと思いました。ひょっとしたら、こういう空間を設けることができないのではないかと頭に浮かびました。これまで何か壁にぶつかったときは、学校の先生たちや親、あるいは近所のおじさん、おばさんにもいろいろなことを教わって育ちましたけれど、先生にも言えない、親にも言えないようなことは友達に悩みを打ち明けました。このメンバーの中で自分がいろいろなことを学んで相談してきたんだと感じました。川島小の教育の中で、自分の過去を振り返り、向き合ったときにこういった感覚が生まれました。

存続を希望する皆さんの気持ちはすごく分かりますし、大きな学校の中で育てたいという親御さんの気持ちもすごく分かります。どちらが正解と言えない中で、規模が小規模校よりもさらに低い数字の中での話になってきてしまっています。やはり、ある程度決断して、子どもたちのために次のステップに動いていかなければならないと思いを強くした次第であります。

毎日教育は深い問題だと思っております。ただ、これからの未来を担う子どもたちのために、そこに軸足を置いて考えていきたいと思っております。教育委員会の皆様だけではなく、私たちも一緒になって考えさせていただく、そのような形で進んでまいりたいと思います。

<宮澤教育長>

町長は川島小の良さを十分理解した上で、この3年間非常に葛藤があったのだと思います。3年前、様々なご意見がある中で、あり方検討委員会が提言を出して、教育委員会も見解を出しました。それを受けて、なんとか川島小を残したいという思いで様々な葛藤の中で苦しんで、いろいろな考察を考えてきたということをお聞きしたわけです。

教育委員会は、川島小学校を諦めるということは誰も思っておりません。3年前当時から、川島小学校はへばい学校だから閉じようと思った教育委員さんは誰もいなかったです。

町内に規模の大きな学校、あるいは小さな学校がありますけれど、それぞれの学校で先生方が子どもたちのために精一杯やっただいて、どの学校に行っても少なくとも学びについては差が出ないようにということで苦勞してきていただきました。それぞれ、特色も精一杯出してきたわけです。

川島小学校はとても良い学校だと思っております。ただ、やはり子どもの数が、これからの社会を生きていくということを考えていきますと、6月23日に保護者と私が懇談をしたときに7家庭の保護者に集まっていたわけですが、少人数では限界だと言われたお母さま方もおられました。今川島小学校に通っている子どもたちの保護者の様々な思いがあります。それら一つ一つを教育委員会としては懇談をさせていただいて確認をしながら思いを受け止めていかなければならないと思います。

ありがたいことは、これから保護者と懇談する中で町長もできれば参加したいということです。町長が無理な場合には副町長、あるいは総務課長に参加していただけるのだらうと思います。様々な願いや思いを受け止める中で、今川島小学校に通わせている保護者のことを受け止めた場合、教育委員会だけではどうしても解決できない部分もございます。その子たちの学びをこれからどうするのかということを考えると、支援策において教育委員会を超えている部分がございます。その部分は他の部局の力も借りなければなりませんので、そこについては町長の方から役場全体で考えていきたいという話をされるということに心強く思っております。

町長の正式な思い、見解を教育委員会として今日受け止めましたので、教育委員会としますと、もう一度3年前に立ち返って、あり方検討委員会が出された提言の項目一つ一つ、そしてそれを受けて3年前教育委員会が出した見解の方向性、それに係わっての様々な施策をもう一度精査をして具体的にやっでいかないと、川島小学校の結論を出せないと思います。その部分は教育委員会の中できちんと協議をし、そこに町長も加わっていただいて町側の意見を受けながら方向性を出していければと思っております。

<根橋教育委員>

私が教育委員になって結構長いですが、学校訪問を毎年行っております。町内の小中学校で毎年行っておりますけれど、私が入った頃は、川島小は結構賑やかな小学校でしたけれど、3年前に行って授業をしている風景を見たときに、複式学級で、一人は1学年で、他の学年でもう二人いました。

複式ですので、例えば4年生を教えると、3年生は自分で机に向かって何かをやるわけですが、その子が外を見ていました。それを見たときに、この子は寂しいの

かなと思いました。子どもの気持ちを考えると、やはり大勢の中で学ばせることが良いのかなと思った時がありました。

<宮澤教育長>

平成28年1月23日に、当時の区長さんをお願いをして、未就学児の保護者に集まっていたいて、13の家庭が参加されて、一人ひとりと懇談をさせていただきました。その時に、あるおじいちゃんに来て、「うちの孫は絶対に川島小に入れない」とはっきりと断言されました。そして13の家庭の中で誰一人、「川島小に入れます」と言う人もいなかったわけです。このことは、私はショックでした。地元で生まれて地元で育って、いよいよ小学校に上がるという時に、地元の学校に入れない、学校に上がるときに地元を出るといふふうに話をされました。

それからは、とにかく子どもを育てる家族を川島から出さないということを考えなければならぬということで、教育委員会で協議をしていただいて、通学区についてはかなり弾力的にさせていただいてきました。町外から川島小学校に入りたいという家庭もあり、それについてもかなり弾力的に認めております。小学校は川島小学校に入りたいということであるが、このことが本当に川島にとって良いことなのかということも、これから教育委員会で検討していかなければならないと思います。町民ではないわけですので、この辺についても考えていかなければならないという気がします。

保育園は、岡谷市や箕輪町から辰野町の保育園に入りたいという場合は手続きを取って、委託料もいただいたりしながらやっています。

町外の子どもたちが来るということは全く想定していませんが、辰野町はそれを認めているわけですが、このことについては本当に良いことなのかも協議していかなければならない。しかし、それは一律にダメというわけにはいかない。もし、その子の命に関わることだったら、町外の子どもであっても受けていかなければならないという思いもします。

様々な事情があって、川島小に来ている子も現にいるということで、一人ひとりに寄り添っていかなければならないと思います。保護者の思いをしっかりと教育委員会だけでなく、町長にも受け止めていただいて、お互いに考えていきたいと思っています。

<加藤総務課長>

今回、6会場を説明会で出向いて感じたことでもあります。多くの方に参加していただきました。この中で様々なご意見、見方があったとすごく感じたところでもあります。当事者で積極的にご発言された方もいますし、そうでない方もいて、それぞれ思いがあったのですが、共通していたことは、みんな川島小学校をなくしたいとは思っていない、それぞれの立場の中でいろいろな選択をしていかなければならないということ強く言われたので、私もじんと来た部分がありました。そういった中で、町長もお

っしやられていましたけれど、川島の地区のことと、また子どもたちの学びの関係、これについては全町的に一生懸命考えた上での結論という部分が説明会の中でも伝わる部分があったのかなと思っています。ただ、こういった部分については丁寧に意見交換をした上でいろいろなところが見えてくるのだらうと思いますので、町も教育委員会の皆さんと一緒に取り組んでいくべきかと思っていますところでもあります。

2点目は学びの部分であります。町長が説明会の時に、今日もおっしやられていましたが、同窓会のお話をされました。実は、自分で自分の子どもの頃のことを考えますと、どちらかと言うとやんちゃでしたので、思い出しますと恥ずかしい話ばかりです。失敗も多かったですし、喧嘩も多かったです。ですが、そういった部分もあとになって、「あの時は、あんなことやっていたね」とか、「あの時は、本当にひどかったよね」とかを言える友達が何人かいます。

今回も、川島小学校の児童数が少ないということだったのですが、単純に児童数が少ない、小規模ということではなくて、学年に一人しかいない、クラスに一人しかいないということが日常にあるということは、非常に大きなことなのだらうと思っています。そういった部分については、先ほど教育長がおっしやられていた通りに、保護者の方も分かっていた部分もあるかと思っていますので、ここら辺を丁寧に確認し合いながらやっていくと、一番良い解決策が出てくるのではないかと思っています。

<山田副町長>

移住定住施策についてですが、引き続き川島地区には町としてしっかり力を入れて頑張っていきたいと思っています。

実は昨日、移住定促進協議会という協議会の総会を行ったのですが、地域おこし協力隊の方に移住定住施策の方を行っていただいております。去年は、30件くらいの方と面接をして、2件だけでしたが辰野町に移住された方がいるみたいです。その方たちは、みんな川島に移住していただいたということで、やはり川島という地域は魅力あるところなのかなと感じることがありますので、引き続き川島の魅力を発信していきたいと思っています。

実は、東京の方に60店舗くらいお店をやっている企業がございまして、その企業の社長さんが川島の古民家を見て回りまして、そこで今度、本社の事業を移転して、こちらの方で事業をやるようなことを進めております。

川島の地域の中では、お困りごとトリックというワーケーションを進めております。

引き続き、こういった移住定住施策についても川島をしっかり見据えて行っていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。